

【2010年3月期決算記者会見資料】

①契約の状況等

		2009年3月期	2009年9月期	2010年3月期
新契約年換算保険料	(百万円)	41,284 (224.1%増)	25,244 (28.3%増)	55,040 (33.3%増)
うち第三分野	(百万円)	— (—)	— (—)	— (—)
保有契約年換算保険料	(百万円)	134,658 (35.5%増)	157,214 (35.6%増)	183,133 (36.0%増)
うち第三分野	(百万円)	5,500 (10.1%減)	5,237 (9.5%減)	4,983 (9.4%減)
保険料等収入	(百万円)	245,750 (83.3%増)	145,047 (19.5%増)	323,450 (31.6%増)
うち個人保険分野	(百万円)	237,756 (88.8%増)	140,802 (19.8%増)	314,182 (32.1%増)
うち団体保険分野	(百万円)	2,696 (45.0%減)	1,022 (18.8%減)	2,079 (22.9%減)
新契約高	(百万円)	216,270 (131.6%増)	131,626 (24.2%増)	296,634 (37.2%増)
保有契約高	(百万円)	2,120,000 (6.2%減)	2,199,361 (0.0%減)	2,289,590 (8.0%増)
解約・失効高	(百万円)	135,301 (18.3%減)	56,893 (20.8%減)	114,436 (15.4%減)
解約・失効率	(%)	5.98 (0.58 [※] イト低下)	2.68 (0.50 [※] イト低下)	5.40 (0.58 [※] イト低下)

※保険料等収入以外は個人保険+個人年金保険であります。

※保険料等収入は損益計算書ベースであります。

※解約・失効高、解約・失効率は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出(2009年9月期は年換算前)しております。

※保険料等収入のうち個人保険分野は個人保険+個人年金保険、うち団体保険分野は団体保険+団体年金保険の合計保険料であります。

※年換算保険料の対象は個人保険と個人年金保険であります。年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、

1年あたりの保険料に換算した金額等(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額等)であります。

※括弧内は前年同期比増減率(解約・失効率は増減[※] イト)であります。

②資産の状況等

		2009年3月末	2009年9月末	2010年3月末
総資産	(百万円)	1,171,138 (11.6%増)	1,317,563 (19.7%増)	1,469,522 (25.5%増)
実質純資産額	(百万円)	87,155 (36.6%増)	93,180 (72.8%増)	90,510 (3.8%増)
実質純資産額/一般勘定資産	(%)	17.1 (3.2 [※] イト増)	19.0 (7.4 [※] イト増)	18.8 (1.7 [※] イト増)
ソルベンシー・マージン比率	(%)	836.8 (83.9 [※] イト低下)	764.6 (103.6 [※] イト上昇)	646.0 (190.8 [※] イト低下)

※括弧内は前年同期比増減率(実質純資産額/一般勘定資産及びソルベンシー・マージン比率は増減[※] イト)であります。

③基礎利益・逆ざや・利回り等

		2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期予想
基礎利益	(百万円)	△ 40,836 (124.6%増)	21,462 (—)	11,000

※括弧内は前年同期比増減率であります。

		2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期予想
逆ざや額	(百万円)	3,651 (451減)	3,466 (185減)	3,000

※括弧内は前年同期比増減実額であります。

		2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期予想
基礎利益上の運用収支等の利回り	%	1.00	0.94	1.0程度
運用利回り(一般勘定)	%	6.03(0.83)	△5.26(0.84)	0.2(0.9)程度
平均予定利率	%	1.89	1.79	1.6程度

*運用利回りについては、金銭の信託運用損益(主に変額年金保険リスクヘッジ)を除いた数値を括弧内に記載しております。

④準備金

		2009年3月末	2009年9月末	2010年3月末
責任準備金(除く危険準備金)	(百万円)	1,090,175 (99,615増)	1,233,744 (185,345増)	1,388,763 (298,587増)
うち一般勘定(除く危険準備金)	(百万円)	428,540 (27,406増)	405,070 (7,924減)	398,171 (30,368減)
うち特別勘定(除く危険準備金)	(百万円)	661,635 (72,208増)	828,674 (193,270増)	990,592 (328,956増)
価格変動準備金	(百万円)	433 (19増)	437 (13増)	387 (45減)
危険準備金	(百万円)	17,508 (3,920増)	21,696 (5,603増)	26,822 (9,314増)
うち危険準備金Ⅰ	(百万円)	5,286 (734増)	6,988 (1,933増)	8,636 (3,350増)
うち危険準備金Ⅱ	(百万円)	— (—)	— (—)	— (—)
うち危険準備金Ⅲ	(百万円)	11,812 (3,185増)	14,278 (3,650増)	17,716 (5,904増)
うち危険準備金Ⅳ	(百万円)	409 (—)	428 (19増)	468 (59増)
危険準備積立金	(百万円)	— (—)	— (—)	— (—)
価格変動積立金	(百万円)	— (—)	— (—)	— (—)

※2009年3月末および2010年3月末の危険準備積立金・価格変動積立金は、剰余金処分後の残高を記載しております。

※括弧内は前年同期比増減実額であります。

⑤含み損益

		2009年3月末	2009年9月末	2010年3月末
有価証券	(百万円)	2,998 (1,527増)	4,124 (4,431増)	3,089 (90増)
うち国内株式	(百万円)	— (—)	— (—)	— (—)
うち国内債券	(百万円)	2,998 (1,449増)	4,061 (4,257増)	2,972 (25減)
うち外国証券	(百万円)	— (4増)	△3 (3減)	— (—)
不動産	(百万円)	— (—)	— (—)	— (—)

※括弧内は前年同期比増減実額であります。

⑥運用実績と計画

		2009年度実績	2010年度計画
国内株式	(百万円)	10減	市場金利の変動に対して資産と負債のキャッシュ・フローの中立化を可能とするため、保険商品の特性に合わせ、確定利付資産によるキャッシュ・フロー・マッチを主体とした運用を行ってまいります。
国内債券	(百万円)	14,979減	
外国株等	(百万円)	17減	
外国債券	(百万円)	—	
不動産	(百万円)	19減	

※2009年度実績は帳簿価額ベースでの増減額を記載しております。

⑦資産の含み損益がゼロになる水準

		2010年3月末
日経平均株価	(円)	上場株式を保有していないため算出しておりません。
TOPIX	(*イン)	上場株式を保有していないため算出しておりません。
国内債券	(%)	1.6程度
外国証券	(円)	外国証券を保有していないため算出しておりません。

※株式は日経平均およびTOPIXにフル連動させ、株式の評価基準にあわせて算出しております。

※国内債券は10年新発国債利回り換算し、小数点第1位まで算出しております。

※外国証券はドル円換算にて算出しております。

⑧2011年3月期の業績見通し

		2011年3月期予想
保険料等収入	(百万円)	310,000
保有契約年換算保険料	(百万円)	200,000
保有契約高	(百万円)	2,370,000

⑨銀行との資本持ち合いについて

i 銀行からの拠出

		総額
基金(株式)に対する拠出	(百万円)	— (—)
劣後ローン等	(百万円)	— (—)

ii 銀行への拠出

		総額
保有している銀行株(時価総額)	(百万円)	— (—)
劣後ローン等	(百万円)	11,998 (0増)

*銀行への拠出の劣後ローン等は、劣後債であります。

⑩職員数

		2009年3月末	2009年9月末	2010年3月末
営業職員	(人)	— (—)	— (—)	— (—)
内勤職員	(人)	340 (0.3%増)	342 (0.6%減)	330 (2.9%減)

※括弧内は前年同期比増減率であります。

⑪銀行窓販の状況

		2009年3月期	2010年3月期	窓販開始以来実績 2002年10月～2010年3月
変額年金保険	新契約件数 (件)	35,844 (230.7%増)	42,700 (19.1%増)	126,223 (51.1%増)
	金額 (収入保険料) (百万円)	209,016 (157.1%増)	282,560 (35.2%増)	1,022,738 (38.2%増)
定額年金保険	新契約件数 (件)	— (—)	231 (—)	231 (—)
	金額 (収入保険料) (百万円)	— (—)	1,322 (—)	1,322 (—)

※銀行には信用金庫を含んでおります。

※定額年金保険は2009年8月より販売を開始しております。

※括弧内は前年同期比増減率であります。

		2009年3月期	2010年3月期	窓販開始以来実績 2005年10月～2010年3月
一時払終身保険	新契約件数 (件)	— (—)	— (—)	— (—)
	金額 (収入保険料) (百万円)	— (—)	— (—)	— (—)
一時払養老保険	新契約件数 (件)	— (—)	— (—)	— (—)
	金額 (収入保険料) (百万円)	— (—)	— (—)	— (—)

※一時払終身保険及び一時払養老保険の取り扱いはありません。

		2009年3月期	2010年3月期	窓販開始以来実績 2007年12月～2010年3月
全面解禁商品	新契約件数 (件)	— (—)	— (—)	— (—)
	金額 (収入保険料) (百万円)	— (—)	— (—)	— (—)

※全面解禁商品の取り扱いはありません。

その他質問項目（2010年3月期）

○「不払い問題」に対する主な再発防止策

1. 業務改善に向けた主な再発防止策
 保険金等の適切なお支払いに向けて、以下の3点を柱とする保険金等支払管理態勢の充実を図っております。
 - ①支払管理部門の態勢整備
 - ②支払監理室の設置による支払監理態勢の強化
 - ③お客さまの視点に立った業務運営の拡充

2. 保険金等の支払管理態勢の強化に向けた今後の取組み（継続取組み項目を含む）
 保険金等の適切なお支払いに向けて、今後もいっそう「お客さまの視点に立って保険金等についてお支払いできるものは全てお支払いする」という取組み方針のもと、引続き以下の取組みを実施してまいります。
 - ①お客さまの視点に立った保険金等のお支払いに向けた規程等の整備
 - ②「サービス監理委員会」による保険金等のお支払い態勢の監督強化
 - ③お客さまの視点に立ったご請求案内に向けた内部監査の強化
 - ④「ご契約内容のお知らせ」による保障内容の定期的なお知らせ
 - ⑤「保険金・給付金のお支払いについて」及び「保険金・給付金をお支払いする場合、お支払いできない場合の具体的事例」のご案内
 - ⑥保険金等の請求・照会窓口の一元化及びお客さまへのきめ細やかな保全案内
 - ⑦失効したご契約等に対するお客さま利便向上策の実施
 - ⑧お客さまが購入された商品について複数の保険金等の請求を同時に行いやすくするような商品の開発
 - ⑨約款の平明化及び簡素化

○証券化商品等への投資及びサブプライム関連投資の状況

2010年3月末現在、証券化商品等への投資及びサブプライム関連投資の残高はありません。

○変額年金保険等の最低保証に係る一般勘定の責任準備金 繰入・戻入の状況

		2009年3月期	2009年9月期	2010年3月期
変額年金保険等の最低保証に係る 一般勘定の責任準備金 繰入・戻入	(億円)	479	△ 187	△ 227
	相場変動に起因する繰入・戻入	389	△ 239	△ 348
	新契約高に対応する繰入・戻入	89	51	120

※戻入についてはマイナスで表示しております。

以上